

船舶事故調査報告書

令和2年5月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和元年11月21日 22時45分ごろ
発生場所	広島県広島市広島港 広島港 ^{にのしまやじた} 似島家下防波堤北灯台から真方位279° 1.1海里付近 (概位 北緯34° 19.1′ 東経132° 24.5′)
事故の概要	プレジャーボート ^{とく} 徳丸は、北北東進中、かき筏に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和元年12月10日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 徳丸、5トン未満（7.02m）
船舶番号、船舶所有者等	270-42760広島、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	本船 船底外板に擦過傷 かき筏 かき筏の部材（竹）に折損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北西、風力 4、視界 良好 海象：波高 約1m、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、GPSプロッターを作動させて約7ノットの対地速力で、手動操舵によりかき養殖施設の東方を北北東進中、船長が、左舷正横約100mに同施設東側中央付近の灯光を見た後、左舷船首方からの風浪に向けて左舵を取って航行していたところ、かき筏（以下「本件筏」という。）に乗り揚げた。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.3m、船尾約1.0mであった。</p> <p>船長は、GPSプロッターにかき養殖施設付近の過去の航跡を残して可航水域を確認できるようにしていたが、本事故時、GPSプロッターを確認していなかった。</p>
分析	本船は、かき養殖施設の東方を北北東進中、船長が、左舷船首方からの風浪に向けて左舵を取り、目視のみで航行を続けたことから、かき養殖施設に向かっていることに気付かず、本件筏に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、かき養殖施設の東方を北北東進中、船長が、左舷船首方からの風浪に向けて左舵を取り、目視のみで航行を続けたため、かき養殖施設に向かっていることに気付かず、本件筏に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

	<ul style="list-style-type: none">・ 夜間、養殖施設付近の海域を航行する場合は、GPSプロッター等の航海計器を活用して船位の確認を適切に行うこと。
--	--